

株主情報

株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日
剰余金の配当の基準日	
期 末 配 当	3月31日
中 間 配 当	9月30日
定 時 株 主 総 会	毎年6月
株 主 名 簿 管 理 人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同 連 絡 先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 TEL 0120-232-711（通話料無料）
上 場 証 券 取 引 所	東京証券取引所JASDAQ（スタンダード）
公 告 の 方 法	電子公告により行います。 公告掲載URL http://www.ajis-group.co.jp/ir/e-koukoku/index.html （ただし、電子公告によることができない事故、 その他のやむを得ない事由が生じたときは、 日本経済新聞に公告いたします。）

（ご注意）

- 株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人（三菱 UFJ 信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱 UFJ 信託銀行にお問合せください。なお、三菱 UFJ 信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱 UFJ 信託銀行本支店でお支払いいたします。

株主優待制度のご案内

株式会社エイジスは、株主の皆様への利益還元のひとつとして株主優待制度を実施しております。



- 割当基準日 9月末日
- 優待内容
 - 100株以上1,000株未満所有の株主様
お米券3kgを贈呈いたします。
 - 1,000株以上10,000株未満所有の株主様
お米券5kgを贈呈いたします。
 - 10,000株以上所有の株主様
お米券10kgを贈呈いたします。



株式会社エイジス

〒262-0032 千葉県千葉市花見川区幕張町4-544-4
TEL：043-350-0888 FAX：043-350-0800

第37期 中間報告書

2013年4月1日から2013年9月30日まで

売場の生産性を高める戦略的アウトソーシング



株式会社エイジス

証券コード：4659

エイジスグループの使命

エイジスグループは、チェーンストアをサポートすることによって社会貢献する企業です。

経営基本方針

私共の事業目的は、正確さを犠牲にすることなく、効率の良い棚卸サービスで、
自信をもった「棚卸報告」を提供し、
お客様の経営判断に重要な役割を果たすことです。

エイジスグループは、実地棚卸サービスなどのリテイルサポートサービスを提供することにより、チェーンストアをサポートしていくことで社会貢献をしています。

それと同時にエイジスグループは、「人」を育成していく役割も担っています。

なぜなら、エイジスグループの仕事は、人がいて初めて成り立つ仕事だからです。どんなにテクノロジーが進化しても、人でなければできない仕事があります。その中のひとつが実地棚卸サービスであり、リテイルサポートサービスです。

人が資産の仕事ですから、エイジスグループは社員を大切にし、社員とともに成長し、さらなる社会貢献を目指します。

トップインタビュー

6期ぶりの増収増益を達成、
新規事業が順調に
成長しています

代表取締役社長 齋藤 昭生



Q 当中間期の事業環境と経営成績についてお聞かせください。

当第2四半期連結累計期間（以下、当中間期）の国内景況は、政権交代後の経済政策などによって先行きは明るい兆しを見せ始めました。当社グループの主要顧客であります流通小売業界においては、消費者の低価格志向の継続や流通小売業界全体での業種・業態を超える競争や消費税率引き上げなどの先行き不安により、依然として厳しい状況が続いております。

このような環境の中、当社グループの当中間期の連結経営成績は、売上高は9,815百万円(前年同四半期比8.0%増)、営業利益は543百万円(前年同四半期比57.7%増)、経常利益は557百万円(前年同四半期比52.8%増)、四半期純利益は296百万円(前年同四半期比126.7%増)となり、6期ぶりの増収増益を達成いたしました。

事業セグメント別に見ますと、主力事業である国内棚卸サービスでは、棚卸閑散期である第1四半期の業容拡大を図るとともに、棚卸繁忙月である8月の棚卸経験者比率を向上させるなど収益性の改善に努めた結果、増収増益となりました。一方で新たな成長分野と位置付けて注力している海外棚卸サービスは、大幅な増収となりましたが、まだ

多くの海外連結子会社が創業赤字を計上する状況にあるため、セグメント損失を計上しています。しかし、売上の増加に伴って売上総利益率は大幅に向上しており、損失額は減少傾向にあります。

また、同じく新たに取り組み中であるリテイルサポートサービスは、順調に成長しており、セグメント利益を計上して黒字体質が定着してきました。

Q 今後の成長戦略をお聞かせください。

国内棚卸サービスについては、精度と生産性の向上を図る取り組みを引き続き行うことで収益性の向上を図ります。それとともに、約2,000社の顧客資産を維持していくことが基本戦略となります。新たな事業を拡大する上においても、当事業における「エイジスブランドの確立」が非常に重要となります。これらを実現するためにも、当事業では多くの顧客の決算月である2月と8月に作業量が集中する傾向にありますので、これを極力平準化することが重要なポイントです。この点に関しては、当中間期に大きな成果が上がっており、閑散期である第1四半期の売上高を前年同四半期比で6.9%伸ばすことができました。しかし、棚卸



繁忙期の作業量に対応するにはまだまだ不十分です。今後も棚卸日程枠拡大、循環棚卸など主力の実地棚卸において作業平準化を核として進めるとともに、さらにリテイルサポートサービスの拡販に取り組んでまいります。

今後の成長戦略の駆動力として期待する事業が、実地棚卸以外の作業で流通小売業をサポートするリテイルサポートサービスです。これまで顧客を装った調査員が店舗の接客水準などを調査する「覆面調査サービス」や、店舗開店前に商品を補充・陳列する「集中補充サービス」などを実施し、順調に業績を拡大してきました。今後も国内棚卸サービスの顧客資産を有効活用し業容拡大を図ってまいります。さらに流通小売業をサポートするサービスの種類を積極的に拡大していく方針で、下期からは新たにショッピングカート・メンテナンスリースサービスを始めました。

海外棚卸サービスについても、有望な成長市場として期待しています。当中間期にはすべての海外連結子会社が増収となり、韓国およびマレーシアの子会社2社は黒字転換を達成しました。海外流通小売業界にも正確な棚卸の重要性が徐々に認識されるようになってきております。今後もアジアを中心に各国の市場環境に応じた施策を柔軟に展開することで業容拡大を図り、2015年3月期の当事業の黒字転換を目指してまいります。

Q 下期の主な取り組みと通期業績予想についてお聞かせください。

当期末に向けても事業環境に大きな変化はないと見ており、2014年3月期の連結業績予想については、売上高は

19,877百万円（前期比5.4%増）、営業利益は1,328百万円（前期比41.5%増）、経常利益は1,350百万円（前期比36.7%増）、当期純利益は744百万円（前期比72.6%増）と見込んでいます。

下期の主な施策としましては、国内棚卸サービスでは永遠の課題である精度の向上と生産性のさらなる改善による収益性の向上を図ってまいります。また、海外棚卸サービスおよびリテイルサポートサービスでは、先ほど述べた中長期戦略に則り引き続き業容拡大に努めてまいります。

来年4月の消費税率引き上げに関しては、突発的な人的支援の需要が増えることが予想されますので、それらの需要を最大限に取り込んでまいります。一方で煩雑な作業が一時期に集中することから生産性の低下を招く可能性もあり、業績への影響については慎重に見極めねばならないと考えております。また、こうした影響を極力受けないよう万全の備えをしてまいります。

Q 最後に、株主様へのメッセージをお願いします。

当中間期は3つのセグメントすべてが増収となり、損益状況も改善するという結果を達成することができました。とくに海外棚卸サービスとリテイルサポートサービスの業容が大幅に改善しており、これらの新規事業はいよいよ創業期を脱し、成長期へと入りつつあるように考えております。今後も主力事業である国内棚卸サービスの高い業界シェアを維持するとともに、これら新サービスの勢いを拡充させ、さらに企業価値を高めることで、株主の皆様のご期待にお応えできるよう努めてまいります。

株主の皆様におかれましては、当社グループの取り組みを是非ご理解いただき、今後ともさらなるご支援を賜りますようお願い申し上げます。

株主総会ダイジェスト

第36回定時株主総会を開催いたしました

当社は2013年6月27日エイジス本社第2ビルにおいて、第36回定時株主総会を開催いたしました。ご出席いただきました株主様におかれましては、改めて御礼申し上げます。

ここでは招集通知の「対処すべき課題」で掲載した経営施策について、当中間期の取り組みと通期の見通しをご説明いたします。

決議事項

第1号議案
剰余金処分の件

第2号議案
監査役2名選任の件



「対処すべき課題」と通期の見通し

通期
連結業績予想

売上高
19,877百万円
(前期比5.4%増)

営業利益
1,328百万円
(前期比41.5%増)

経常利益
1,350百万円
(前期比36.7%増)

当期純利益
744百万円
(前期比72.6%増)

01 技術開発ならびに人材の定着による実地棚卸サービスの精度、生産性のさらなる向上

作業効率向上につながる新システムおよびオペレーションの導入や、リテイルサポートサービスの拡販、棚卸経験者比率の向上により、「棚卸のプロ集団」を形成します。それらにより、収益構造を改善し、精度および生産性の向上を図り、競合他社との差別化に努めます。

02 国内外の顧客に対する棚卸アウトソーシングニーズを顕在化させる提案営業

流通小売各社がアジアへの出店を加速していますので、海外棚卸サービスにおいて、これらの需要を取り込むことに注力します。

03 実地棚卸サービス以外の顧客のニーズに対応する集中補充サービスをはじめとするリテイルサポートサービスの拡充等

リテイルサポートサービスを拡充するための専門部署を新設し、国内棚卸サービスで培った顧客資産を活用するとともに、グループ各社との連携を強化し、棚卸閑散期の業容拡大を図ります。また、チェーンストアの経営合理化を支援する新たなサービスの開発に努めます。

株式会社カスタマーサービス・チェック

所在地 千葉県千葉市花見川区幕張町3-7727-1

設立 2007年3月23日

資本金 50百万円

事業内容

- 市場調査とその分析に基づく事業の企画、立案並びに実施業務
- 市場調査、市場分析、マーケティング情報の収集および分析
- 各種調査結果に基づく従業員の教育・訓練の実施

営業拠点 千葉、大阪



株式会社カスタマーサービス・チェック
代表取締役社長 木口 利男

株式会社カスタマーサービス・チェックは、株式会社エイジスおよびFC3社の出資により2007年3月に設立されました。当社の事業目的は契約調査員を活用したミステリーショッピングにより店舗の客観的調査を行うこととあります。当社は、米国の提携会社から導入した当事業のノウハウを基に、国際業界団体(MSPA)のメンバーとしてMSPAの倫理基準に基づいたグローバルスタンダードの調査を行っております。

当社の強みの一つは、全国に訓練された調査員を有することと、エイジスグループ企業として全国のエイジスの営業拠点およびスタッフを活用できる点です。こうした長所を活かして、これまで小売業、飲食業、金融業、ディベロッパー、その他各種サービス業など広範囲にわたるお客様から調査を受託しております。特にエイジスの顧客基盤を背景に、小売業の分野では業界でナンバーワンの実績を挙げています。その実績を背景に、今期は念願であった日本郵便株式会社様から全国の郵便局の窓口業務調査を受託することができました。また当社の特長である訓練された調査員による正確でスピーディな調査報告書の提出(調査後72時間以内の納品)は、お客様から高く評価され90%以上の高い契約継続率をいただい

ています。

今後の経営方針は、短期的には株式会社エイジスの今期課題である「リテイルサポートサービスの拡充」方針に沿い、リテイルサポート分野における戦略子会社としての機能を活かし、親会社との連携強化により新規顧客獲得による売上高増強に注力することです。そして顧客に対しては、当社の強みである調査員とシステムを活用した調査データの収集分析により、CS(顧客満足度)、ES(従業員満足度)の両面において経営判断に資する情報を提供してまいります。

また、業績の拡大に備え社員一人ひとりのレベルアップを図ってまいります。それとともに、MSPAのメンバー企業として親交のある海外の同業者との提携や、国内企業との協業も視野に入れてミステリーショッピング受託企業の業態を広げてまいります。

さらに昨年更新した基幹システムを活用し、今年度下期からエイジスグループのデータ収集業務を支援しグループ全体の業務効率改善にも貢献してまいります。また、中長期的には調査、分析力に一層の磨きをかけエイジスグループのコンサルティング機能も担える会社に進化してまいります。

営業活動報告

売上高

9,815百万円
(前年同四半期比8.0%増)

営業利益

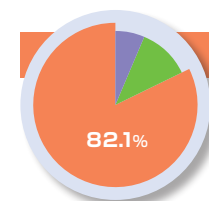
543百万円
(前年同四半期比57.7%増)

経常利益

557百万円
(前年同四半期比52.8%増)

四半期純利益

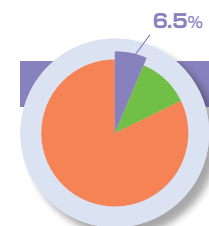
296百万円
(前年同四半期比126.7%増)



国内棚卸サービス

売上高 >> 8,061百万円
セグメント利益 >> 557百万円

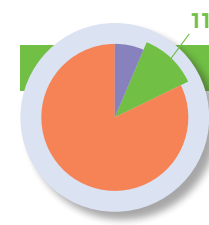
●今期事業所再編を実施したことおよび前期無線棚卸初期投資を計上したこと等により、売上総利益率は0.6ポイント向上しました。



海外棚卸サービス

売上高 >> 638百万円
セグメント損失 >> 77百万円

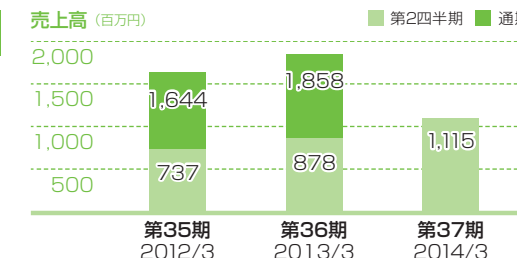
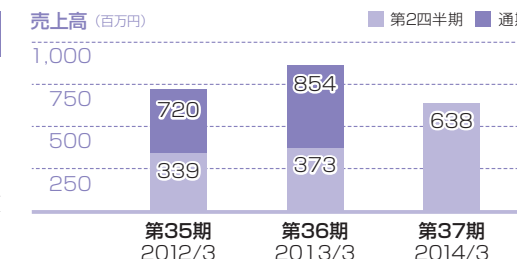
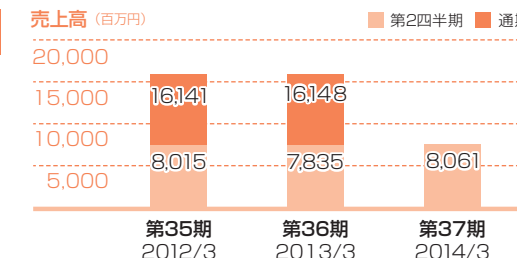
●全ての海外連結子会社で増収しました。
●売上増加に伴い売上総利益率は18.8ポイント向上、販売管理費率は13.8ポイント低下しました。



リテイルサポートサービス

売上高 >> 1,115百万円
セグメント利益 >> 60百万円

●連結子会社2社共に増収しました。
●カスタマーサービス・チェック社の基幹システム変更に伴い、売上総利益は1.8ポイント向上しました。
●売上増加に伴い販売管理費率は5.2ポイント低下しました。



四半期連結財務データ

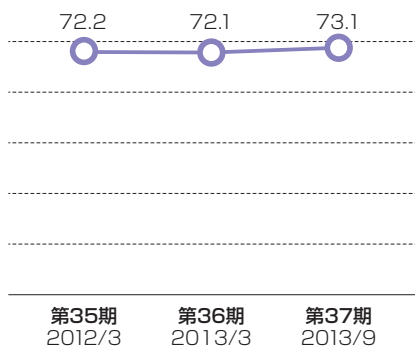
財 政 面

■ 総資産 / ■ 純資産 (単位：百万円)
○ 1株当たり純資産 (単位：円)



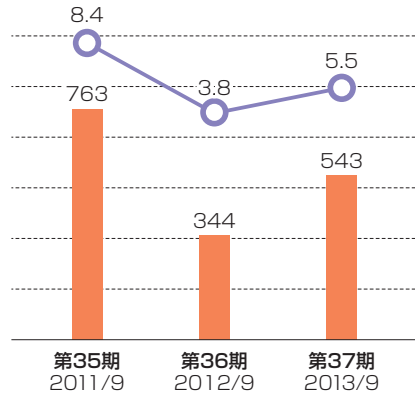
総資産は前期末に比べ2百万円増加して11,131百万円になりました。純資産は前期末に比べ112百万円増加して8,166百万円になりました。これは主として、利益剰余金の増加によるものです。なお、自己資本比率は前期末に比べ1.0ポイント増の73.1%となりました。

○ 自己資本比率 (単位：%)



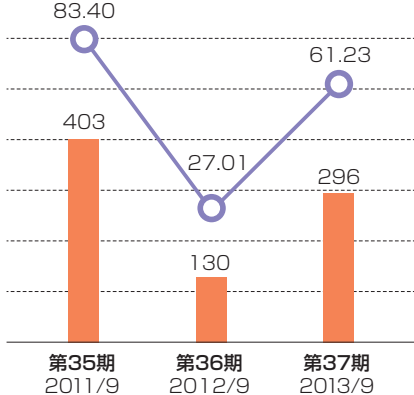
収 益 面

■ 営業利益 (単位：百万円)
○ 売上高営業利益率 (単位：%)



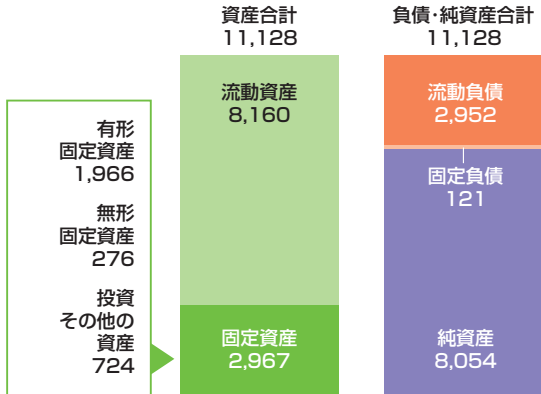
全てのセグメントで増益となりました。リテイルサポートサービスは黒字転換いたしました。海外棚卸サービスは、まだ多くの海外連結子会社が創業赤字を計上する状況にあるものの、損失額は減少傾向にあります。その結果営業利益は199百万円増の543百万円となりました。

■ 四半期純利益 (単位：百万円)
○ 1株当たり四半期純利益 (単位：円)

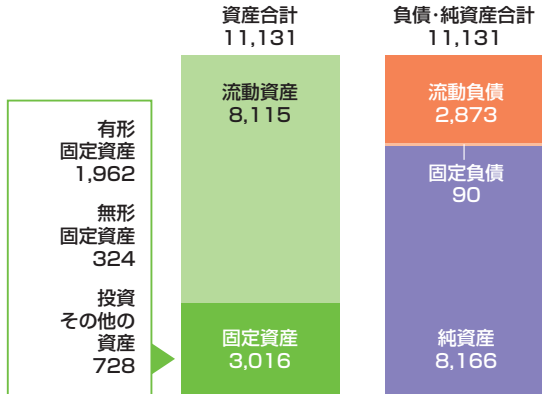


四半期連結貸借対照表の概要 (単位：百万円)

■ 第36期 (2013年3月31日現在)

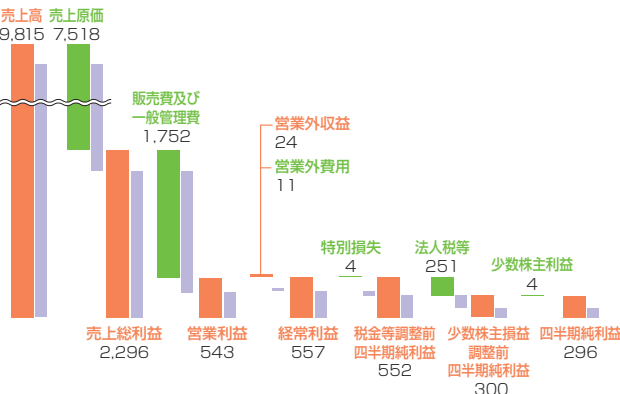


■ 第37期第2四半期 (2013年9月30日現在)



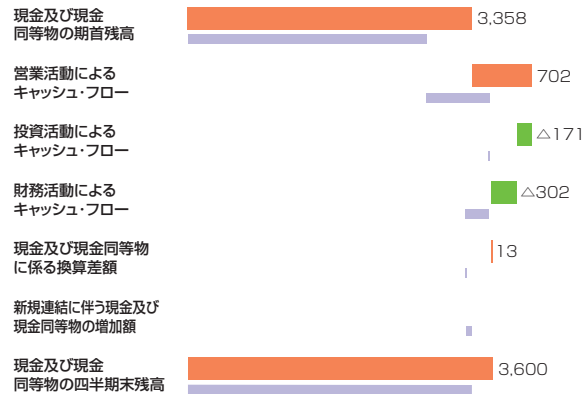
四半期連結損益計算書の概要 (単位：百万円)

■ は第36期第2四半期の状況



四半期連結キャッシュ・フロー計算書の概要 (単位：百万円)

■ は第36期第2四半期の状況



株式情報

株式の状況

(2013年9月30日現在)

発行可能株式総数	14,000,000株
発行済株式の総数	5,385,600株
株主数	3,871名

大株主(上位10名)

(2013年9月30日現在)

株主名	当社への出資状況	
	持株数(株)	出資比率(%)
有限会社斉藤ホールディングス	1,285,500	23.87
齋藤昭生	716,580	13.31
ビービーエイチ フォー フィデリティ ロー プライスド ストック ファンド	536,800	9.97
齋藤茂男	203,900	3.79
小林美保子	191,800	3.56
齋藤泰範	127,670	2.37
清水昭順	90,170	1.67
エイジス従業員持株会	89,556	1.66
バンク オブ ニューヨーク シーシーエム		
クライアント アカウント ジェイビーアール	58,100	1.08
デイ アイエスジー エフイーエイシー		
株式会社三菱東京UFJ銀行	44,000	0.82

(注) 当社は、自己株式544,000株を保有しておりますが、上記大株主から除外しております。

利益配分に関する基本方針

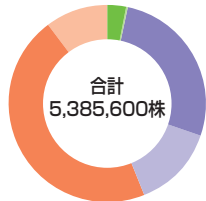
当社は、株主の皆様に対する利益還元を経営の重点課題と位置付けており、長期的に安定した収益力を保持すると同時に、企業体質強化のための内部留保を勘案し、安定した利益配分を持続させることを基本方針としております。

当期の配当につきましては、1株当たり期末配当45円を予定しております。一方、内部留保資金につきましては、今後予想される経営環境の変化に対応すべく、今まで以上にコスト競争力を高め、市場ニーズに応える技術・オペレーション体制を強化するために有効投資してまいりたいと考えております。

所有者別分布状況

(2013年9月30日現在)

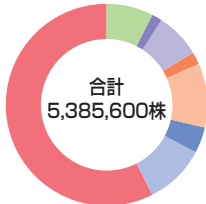
■ 金融機関	171,680株 (3.19%)
■ 金融商品取引業者	17,801株 (0.33%)
■ その他の法人	1,441,750株 (26.77%)
■ 外国法人等	745,300株 (13.84%)
■ 個人・その他	2,465,069株 (45.77%)
■ 自己名義株式	544,000株 (10.10%)



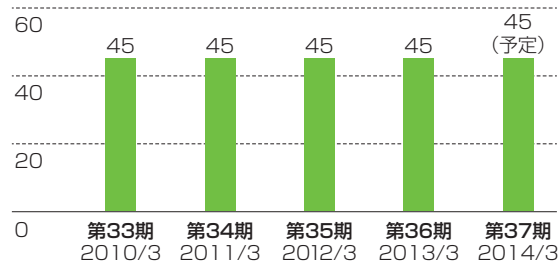
所有株数別分布状況

(2013年9月30日現在)

■ 1単元未満	3,655株 (0.07%)
■ 1単元以上	408,189株 (7.58%)
■ 5単元以上	90,000株 (1.67%)
■ 10単元以上	391,130株 (7.26%)
■ 50単元以上	94,710株 (1.76%)
■ 100単元以上	553,840株 (10.28%)
■ 500単元以上	237,826株 (4.42%)
■ 1,000単元以上	523,370株 (9.72%)
■ 5,000単元以上	3,082,880株 (57.24%)



1株当たりの配当金の推移 (単位: 円)



会社概要／主要取引先

会社概要

(2013年9月30日現在)

会 社 名	株式会社エイジス (英文名 AJIS CO., LTD.)
資 本 金	475百万円
設 立 年 月 日	1978年5月23日
従 業 員 数	252名 (612名 ※連結)
営 業 拠 点	直営44カ所 FC34カ所 (合計78カ所)
業 務 内 容	● 実地棚卸サービス ● その他の流通業周辺サービス
主要取引銀行	● 三菱東京UFJ銀行 ● 千葉銀行 ● みずほ銀行 ● 三井住友銀行
ホームページ	http://www.ajis-group.co.jp/

取締役および監査役

(2013年9月30日現在)

代表取締役社長	齋 藤 昭 生
常 務 取 締 役	近 江 元
常 務 取 締 役	高 橋 一 人
取 締 役	竹之下 正 夫
取 締 役	戸 丸 富志夫
取 締 役	山 根 洋 行
取 締 役	手 塚 勝 也
取 締 役	平 石 智 之
取 締 役	福 田 久 也
取 締 役	森 和 弘 (社外取締役)
常 勤 監 査 役	鈴 木 行 雄
常 勤 監 査 役	増 子 泰 由 (社外監査役)
監 査 役	船 橋 茂 紀 (社外監査役)

主要取引先

(2013年9月30日現在)

コンビニエンスストア		
サークルKサンクス	セブン-イレブン・ジャパン	ポプラ
スリーエフ	デイリーヤマザキ	ミニストップ
セブオン	ファミリーマート	ローソン
G.M.S./スーパーマーケット		
アルビス	コープこうべ	ベルク
イオンリテール	コープネット事業連合	マックスバリュ各社
イズミ	サミット	マルエツ
イズミヤ	G-7 スーパーマート	万代
イトーヨーカ堂	生活協同組合ユーコープ	みやぎ生協
いなげや	大黒天物産	ヤオコー
ウオロク	東急ストア	ヤマザワ
オークワ	とりせん	ヤマナカ
オオセキ	長崎屋	ユニバース
オギノ	原信ナリスホールディングス	ヨークベニマル
Olympic	パロー	ライフコーポレーション
カスミ	ベイシア	
関西スーパーマーケット	平和堂	
百貨店		
大丸松坂屋百貨店	東急百貨店	丸井
高島屋	阪急阪神百貨店	三越伊勢丹ホールディングス
天満屋	松屋	
ホームセンター/ドラッグストア/ディスカウントストア		
ウェルバーク	サンデー	PLANT
カインズ	サンドラッグ	ホームマック
カワチ薬品	CFSコーポレーション	マツモトキヨシ
グスリのアオキ	島忠	ユタカファーマシー
クリエイト エス・ディー	スギ薬局	ユニリビング
ケーヨー	セキチュー	LIXILビバ
ゲンキー	ダイユーエイト	ロイヤルホームセンター
コーナン商事	千葉薬品	
コクミン	富士薬品	
書店		
あおい書店	三省堂書店	丸善書店
旭屋書店	三洋堂書店	宮脇書店
グレイズファンガードコーポレーション	JR東日本リテールネット	未来屋書店
勝木書店	ジュンク堂書店	有隣堂
カルチュア・コンビニエンス・クラブ	文教堂	リブロ
紀伊國屋書店	文真堂書店	
アパレル		
エディ・パウアー・ジャパン	ジョルジオ アルマーニジャパン	ポロラルフローレン
ギャップジャパン	東京シャツ	ユニクロ
クリスチャン ディオール	西松屋チェーン	ライトオン
ゴールドウィン	バル	ワークマン
ザラ・ジャパン	ポイント	ワールド
その他		
赤ちゃん本舗	ゼビオ	藤久
アディダス ジャパン	セリア	メガスポーツ
エディオン	大創産業	やまや
キャンドック	東急ハンズ	良品計画
カニマス	ドン・キホーテ	ロフト
コーチ・ジャパン	ニトリ	ローソンHMVエンタテイメント
コジマ	日本トイザらス	
上新電機	ビックカメラ	

※ 敬称・法人格は省略させていただいております。 ※ 50音順